

乙 第 号

橋本 直樹 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	西尾 健治
論文審査担当者	委員	病院教授	西久保 敏也
	委員(指導教員)	教授	野上 恵嗣

主論文

Screening of the protein C pathway abnormality-related thrombophilia by using thrombomodulin-mediated tissue factor-triggered clot waveform analysis

組織因子惹起-トロンボモジュリン添加凝固波形解析を用いたプロテイン C 経路異常を伴う血栓性素因のスクリーニング法

Naoki Hashimoto, Kenichi Ogiwara, Naruto Shimonishi, Takashi Nakagawa,

Yuto Nakajima, Shoko Furukawa, Masahiro Takeyama, Keiji Nogami

European journal of Haematology 2022 Jul;109(1):100-108.

論文審査の要旨

血栓素因としてプロテイン C (PC) 欠乏症、プロテイン S (PS) 欠乏症、抗リン脂質抗体症候群、FV 分子異常症などが知られているが、既存の検査法は PC や PS 活性や抗原定量をもとにおこなわれてきており、高コストで専門的な技術や長い時間を必要とし、適当なスクリーニング法の確立が望まれてきた。今回、各施設で使用されている全自動凝固測定装置を利用した凝固波形解析を用いて PC 系の異常を簡便に検出する方法を確立された。方法は、トロンボモジュリン (rTM) が低濃度で存在する場合、トロンビンと結合して PC 系を活性化し、第 VIII 因子や第 V 因子の分解により凝固速度が減少 (Peak ratio が減少) することを利用して、rTM 添加前後の凝固波形解析で Peak 値の減少が少ないものを PC 経路異常病態としてスクリーニングすることに成功された。PC 活性・抗原量と Peak ratio の関係についての質問に対しては PC 活性が 60%では正常であったと回答された。他の多岐にわたる質問に対しても、返答は適切かつ論理的であり、副論文も踏まえて、本研究は、血栓止血学の発展に寄与し、学位に相当する研究と考えられた。

参 考 論 文

1. Characterization of thrombophilia-related plasmas evaluated by anticoagulants-mediated thrombin and plasmin generation assays
Naoki Hashimoto, Kenichi Ogiwara, Tomoko Matsumoto, Shoko Furukawa, Masahiro Takeyama, Keiji Nogami Blood Coagulation and Fibrinolysis 2022
(in press)
2. ミゾリビンの併用が奏功した tubulo-interstitial nephritis and uveitis syndrome の 2 例
橋本 直樹、濱田 匡章、遠藤 友子、上田 卓、田中 一郎、石川 智朗、中島 充 日本小児腎臓病学会雑誌 30 卷 1 号 Page73-79(2017.04)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに**発達・成育医学**の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年9月13日

学位審査委員長

総合臨床病態学

教授 西尾 健治

学位審査委員

発生・発達医学

病院教授 西久保 敏也

学位審査委員(指導教員)

発達・成育医学

教授 野上 恵嗣